

国立大学法人東京大学

三菱商事株式会社から東京大学へ6億円の寄付により 全学横断での技術発掘・起業支援プログラムを設立

——「Tech Incubation Palette」で東大発のスタートアップを加速——

このたび、国立大学法人東京大学（東京都文京区、総長：藤井 輝夫、以下、「東京大学」）は、三菱商事株式会社（本社：東京都千代田区丸の内、代表取締役社長：中西 勝也、以下「三菱商事」）からの多大なるご寄付をもとに、東京大学発のスタートアップ創出を加速させる「東京大学・三菱商事 Tech Incubation Palette」（以下、本プログラム）を設立いたします。

東京大学と三菱商事は、本プログラムを通じ、東京大学が有する有望技術の発掘から事業化に至るまでのプロセスを一気通貫で支援し、社会実装を後押ししてまいります。

東京大学は起業支援に力を入れており、一部領域では成果を上げ始めておりますが、民間企業の知見・ネットワークを活用した全学横断での技術発掘・起業支援プログラムは、東京大学にとって初の取組みとなります。

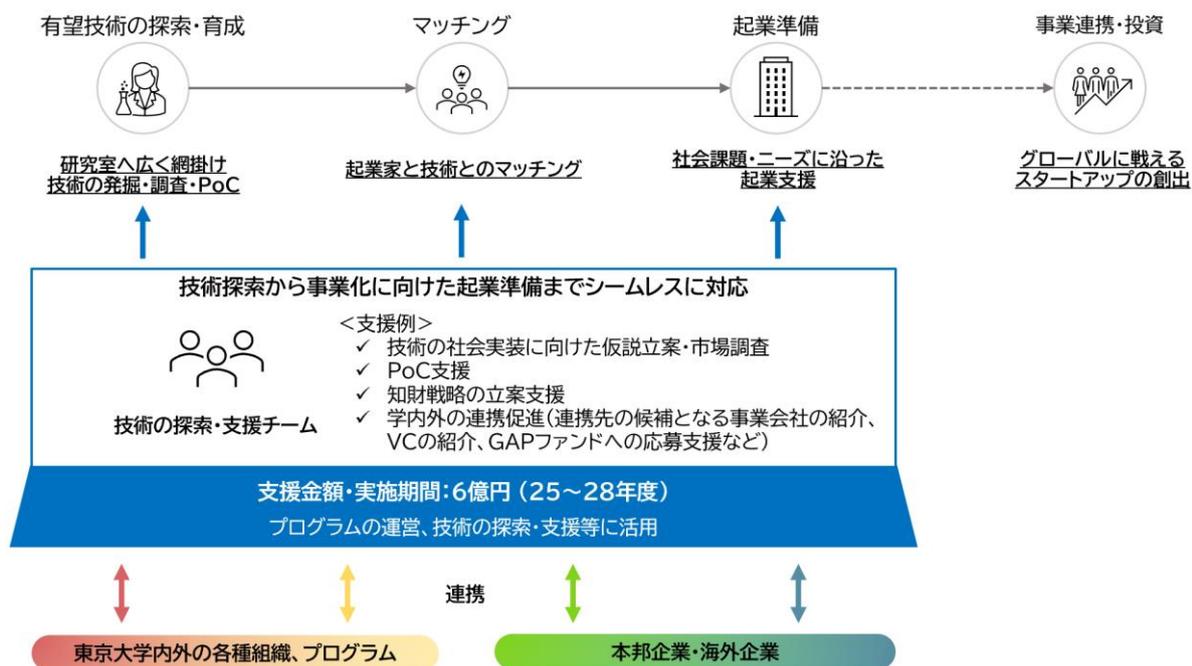
今回新設する本プログラムでは、東京大学に潜在する有望技術を、特定領域に限らず広く発掘・探索するとともに、起業家候補の紹介や起業支援などステージに応じたサポートを行います。三菱商事からは、寄付に加え、産業知見やグローバルベースでの企業ネットワーク等を提供いただくことで、有望な研究・技術が持つポテンシャルを最大限に引き出されることが期待されます。

【研究・技術の社会実装に関する課題】

東京大学には社会を変えうる有望な研究・技術が多数存在する一方、事業化に向けた支援には以下の課題があります。

- 市場ニーズの高い技術を発掘するための産業知見・評価リソースが大学内に不十分
- 起業実績がAI等の特定領域に偏りがちで、大学が有する技術全般へ浸透できていない
- 技術を社会実装へつなぐ支援プログラムが、外部依存であり分散する傾向
- 多様な外部支援を包括的に案内する機能が大学内に不足
- グローバルに戦えるスタートアップの育成・支援が未確立

東京大学と三菱商事は、研究・技術の社会実装に対する企業の貢献のあり方を継続的に模索して参りました。本プログラムでは、有望技術のマッピング手法による可視化、産業知見を起点にした技術発掘などの手法で、日本全体にも共通するこれらの課題を解決する、新しい産学連携の形となることを目指します。



図：本プログラムの全体像

【東京大学・三菱商事 Tech Incubation Palette の概要】

名称	東京大学・三菱商事 Tech Incubation Palette
プログラム主体者	東京大学 産学協創推進本部
実施期間	2025 年度～2028 年度（予定）
プログラム内容	10年で年間300件のスタートアップ創出を東京大学が目指す中、分散する関連支援の中核的なプログラムとして、大学が主体となり技術の発掘から事業化までを一気通貫で支援。スタートアップ創出数の拡大を目指す
支援内容	プログラム運営費として6億円を東京大学に寄付（運営費は三菱商事からの寄付で賄う予定）。三菱商事からは、産業知見、グローバルベースでの様々な企業とのネットワーク等も提供予定

【本件に関する問合せ先】

- 「東京大学・三菱商事 Tech Incubation Palette」に関すること

東京大学 産学協創推進本部

E-mail : sangakumc.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

- 基金に関すること

東京大学 ディベロップメントオフィス

TEL : 03-5841-1217 (10:00~12:00 13:00~16:00 土日祝除く)

E-mail : shougai_co.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

●企業情報等に関すること

三菱商事株式会社 広報部 報道チーム

TEL : 03-3210-2121

E-mail : ml.mcpr@mitsubishicorp.com

※ 本件のメールでのお問い合わせに際しては、件名冒頭に「【0328 三菱商事／東大】」と記載いただきますよう、お願い申し上げます。